平成28年度　　単位施策評価表

所属 25150000
産業振興部　観光振興課

施策	6502　全市的交流イベント開催の推進					
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有
対象	観光イベント					
施策が目指す姿	交流イベントの開催等を図る。 スポーツ大会参加数					
成果指標	新市一体感の醸成に資する観光イベントの再編成事業数 現状値　－　H29年度目標値　10事業 スポーツ大会参加数 現状値11,689　H29年度目標値　15,000人					

目標達成状況

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
成果指標１	予定	0.00	2.00	4.00	6.00	10.00
[　事業　]	実績	0.00	0.00	0.00	2.00	
成果指標２	予定	9,700.00	10,200.00	11,000.00	13,000.00	15,000.00
[　人　]	実績	23,775.00	27,097.00	21,808.00	8,610.00	
	単位ｺｽﾄ	0.00	0.11	0.12	0.00	
成果指標３	予定					
[　　]	実績					
	単位ｺｽﾄ					
成果指標４	予定					
[　　]	実績					
	単位ｺｽﾄ					
ﾄｰﾀﾙｺｽﾄ（千円）	予定	0	3,208	4,378	0	0
	実績	0	3,069	2,618	0	0

内部評価

貢献度	上位施策の「多文化共生社会の成熟度」を高めるためには、観光イベントやスポーツ大会等の広く市民の参加できる催しを開催する必要があるため本単位施策への貢献度は高い。
達成状況	平成28年とちぎ秋まつりでは、市内全地域の小学生2,157人の参加希望があり、観光イベントによる一体感の醸成が図られつつある。
課題	各地域の観光イベントは、各地域に昔から根付いたイベントであり、一概に統合在りきというわけにはいかないことを実感した。
取組方針	平成２９年度末をもって各地域の観光協会が合併する予定であるため、今後は合併後の観光協会が中心となり調整する。

外部評価

本施策の成果指標の実績はともに大幅未達となっており、その要因分析を行い、次回の内部評価で示されたい。
また、新市一体感の醸成に関するイベント再編の指標に関しては、次のステップを考慮した成果指標に見直しを行うべきと考えるが、イベントの再編は計画的に取組まれることをお願いしたい。
例えば、桜祭りなど地域で同じイベントが開催されているようなものは、本部を持ち回りとした統合案を検討するなど、具体的な成果を示されることを期待する。なお、取組方針に観光協会が中心となりという表現があるが、あくまで進めるのは市が中心となり、観光協会とは連携を密にして取組まれたい。
これまでも指摘しているが、無予算事業も含め事務事業の洗い出しや発掘に努めること。

単位施策達成のための事務事業

事業ｺｰﾄﾞ	名　　称	ﾄｰﾀﾙｺｽﾄ(千円)	達成度

平成28年度　　単位 施策評価表 補表

施策	6502　全市的交流イベント開催の推進		
区分	妥当性	妥当	実施・主体・手段・意図ともに妥当である。
	コスト削減の余地	無	なし。
	受益者負担	適正	スポーツ大会の参加費や駐車場料金の徴収など、受益者にも負担を求めており適正である。
	上位貢献度	有効	上位施策「多文化共生社会の成熟度」を高めるには、全市的イベントを開催する必要があり、本施策の貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	なし。
	成果向上の余地	有	各地域のイベント再編によるコストの削減、新市の一体感を醸成するための工夫など、成果向上の余地は残る。
内部評価	貢献度	上位施策の「多文化共生社会の成熟度」を高めるためには、全市的な観光イベントの開催や、広く市民が参加できる各種スポーツ大会等を開催する必要があるため、本単位施策への貢献度は高い。	
	達成状況	平成28年とちぎ秋まつりでは、市内全地域の小学生2，157人の参加希望があり、全市的な観光イベントの開催による一体感の醸成が図られつつある。 また、平成28年度で4回目を迎えた栃木市ウォーキング大会では、昨年も30㎞縦断コースを設定し、全市的なイベントとして定着しつつある。 なお、冬のイルミネーションの統廃合、及び各地域のさくらまつりのポスターを合同で作成した。	
	課題		
	取組方針	再度、イベントの統合や再編に向けた方向性を検討する。 なお、平成29年度末をもって各地域の観光協会が合併する予定であるため、イベント等においても新市一体となったイベントが開催できるよう、今後は合併後の観光協会が中心となり調整をおこなう。	